R３．８．１１
第１号
通巻153号

学院通信

発　行
金光教学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷1486
TEL(0865)42-3115
FAX(0865)42-3114

聖跡巡拝（泉勝院）

「立ち行くということ」

学院長　高橋　寛志

今年は学院本科に二十一名が入学し、本日、夏期在籍教会実習の出発式を迎えることができた。先だって、特科の九名が全員揃って無事に卒業することができ、ここまで、本科、特科合わせて三十名が、この学院で修行できたことは有り難いと思わせていただいている。

今年も、新型コロナウイルス感染症が蔓延している中であったが、本科も特科も予定通りに入学することができ、予定されたカリキュラムに沿って、ここまで順調に修行を進めることができている。このことは、物凄いお繰り合わせを頂いているのだと思う。本科入学日の翌日には岡山県に緊急事態宣言が発出され、特科入学日は宣言が継続されており、入学延期という可能性もあった。また、入学後に学院内で感染が確認されれば、途中で、学院を閉ざさないといけない可能性も常にある。さらに、院外から講師を招聘する際にも様々な配慮が必要となった。そうした中、教師養成に必要なカリキュラムを組むことができ、実施できているのである。

ここに、私は「立ち行く」というおかげを受けていることを感じるのである。金光教教師養成機関としての働きを変わらず続けて行くことができていること、しかも、コロナ禍で、その働きが落ちるのでなく、もしかしたら、より増した働きができているのではないかとさえ感じているのである。

世の中は、コロナ禍で、立ち行かないところが多く出ている。そうした中、立ち行くおかげを頂くにはどうしたらいいのかを求めていきたい。そして、教会が立ち行くおかげを生み出せる場所にできる教師を輩出していかなければいけない。それが、金光教学院にかけられた神様の願いでもあると感じさせていただく。そういう意味では、新型コロナウイルス感染症に対して、祈りを持って向かい、自らがおかげを受け、そして、社会を立ち行かせる徳と力を養成できる金光教学院でありたいと願っている。

学院修行について

学院次長　坂口　光正

五月十五日の入学式から、早くも三カ月が経とうとしております。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、保証教会長先生のご指導の下、入学前から二週間、不要不急の外出を控えていただき、検温をはじめ、健康管理をしていただき、本科生二十一名が入学することができました。また、七月十六日には、一カ月の修行を終えた、特科生九名が全員揃って卒業することができました。これも、教会長先生はじめ関係各位のお祈りとご協力があってのことであると感謝しております。

求道の日（覚書筆写）

「覚書」の安政五年の記述に「秋中、行せい。朝起き、衣装着かえ、広前出、祈念いたし」というものがあります。これは、神様からの教祖様へこのように修行をせよとの具体的なお知らせであり、教祖様は仰せ通りにその修行を進められました。学院でも朝起きて、黒衣に着替え、本部広前へ参拝することから一日がはじまります。そして、奉仕が、学院生を代表して教主金光様に御取次を願います。奉仕は、その日一日、生神金光大神様のお手代わりとして、課業がない時間は、学院広前のお結界に座ります。特に自主信行日などは、他の学院生が買い物に出かけたり、自修室で体を休めたりしている中、お結界に奉仕します。そういう時、日々、御用くださる教主金光様のお姿に思いを馳せ、少しでもその姿勢に習わせていただこうという思いになったという声も聞かれます。そうした奉仕のお役を通して、結界取次者としての心構えが培われていくのはありがたいことであります。

また、「神に心を向ける」を前期の信行目標として、ここまで信心修行に取り組んできました。学院では、参拝はもとより、炊事、洒掃、作業なども御祈念をもって始め、御祈念をもって終ります。各寮の自修室には、御神前が調えられ、朝起きたら目覚めのお礼と今日一日のお願いを、夜寝る前には一日のお礼と明日のお願いを、というように、それぞれが神様に心を向け、信心生活になっていくことを願わせていただいております。

コロナ禍であっても、教祖様にはじまり、歴代金光様、そして先輩諸師が、伝え遺してくださったこの道の大切な修行が、変わりなく進められていることは真にありがたいことであると思わせていただいております。ここからもお祈り添えをよろしくお願い申しあげます。

信行輔導期間（食堂での指導）

一日の信行内容

（時間）	（信行内容）
5:20	起床
5:40	参拝出発
6:00	本部広前御祈念・洒掃
7:30	朝食
8:30	朝礼
9:00	午前の課業
11:50	洒掃
12:30	昼食
13:30	午後の課業
15:20	参拝出発
15:40	本部広前御祈念・洒掃
16:40	お退けお見送り・洒掃
18:00	夕食
19:00	夜御祈念
	自修・入浴
21:00	閉門
22:00	消灯

人事異動

- 講師眞田奈保子、十二月二十一日付で辞任。
- 講師中西教幸、主事松本智子、四月十六日付で辞任。
- 助手笠井佳実子、五月一日付で講師に任命。
- 教団職員平川高広、五月八日付で事務長に任命（総務部から異動）。
- 事務長森本祐二、五月八日付で主事に任命。
- 教師須嵜元道、日吉祐里、教徒西川道子、五月八日付で書記に任命。

講義科目・担当者

教会・布教科目	教団科目	教祖・教義科目	信修科目
結界取次 教会活動（各種活動） 礼典（祭式） 礼典（祭式） 礼典（祭詞）	教制 教団史 教団活動	教祖 教義	本教概説
金原光三 安部美雄 仁科明日児 堀江芳則 田中照彦	三好光一 加藤実 吉岡徹	佐藤光貴 坂口光正	高橋寛志

ここまでの歩み

■信行輔導期間

学院では、「お道の教師にお取立ていただきたい」という同じ願いの下に全国から年齢や経歴、育った環境が異なる者たちが集い、同期生として一年間の修行を進めていく。その学院生が、基本日課を習得し、修行としての学院生活を進めていくために、学院では、入寮してからの十日間を信行輔導期間と定めている。本年度も、前年度の卒業生であるＯＢから、奉仕・待命・炊事・洒掃などの生活全般の指導を通して、本部広前の修行生としての在り方を学んだ。

ＯＢの方々による丁寧な指導により、本年度の学院修行が始まった。御用に当たっていただいたＯＢの方々には改めて御礼を申し上げたい。

本年度のＯＢは以下の通り。（敬称略）

福嶋　光輝（大阪・真砂）
原田　誠人（兵庫・常盤木）
金保　幹斗（大阪・林寺）
澤井　薫（和歌山・和歌山）
竹部　澄香（兵庫・姫路）
河合今日子（鳥取・米子）

信行輔導期間（参拝）

■聖蹟巡拝

聖蹟巡拝は、教祖様ゆかりの地を訪れ、教祖事蹟への理解を深めることを願いとして実施している。

六月二十四日には、本科生・特科生合同で教祖様のご生家方面へ赴いた。大谷の荒神社、早馬神社、西側の墓地（金光家遠祖歴世親族家族之奥城）などを巡り、ご生家まで歩き、ご当主・香取航師から教祖様にまつわる話を伺い、教祖様直筆の神名書付、天地書附など貴重な品々を拝見させていただいた。また、教祖様実父である十平様が幼少の教祖様を背負って参ったとされる泉勝院と、占見村の氏神である大宮神社へも参拝した。

また、六月十九日には特科生が、七月二日には本科生が四グループに分かれて、教祖奥城や立教聖場、歴代教主奥城をはじめ、小野邸跡や絵師迫墓地など、木綿崎山周辺の聖蹟を巡った。

学院生は大谷村、占見村の聖蹟を興味深く巡拝し、教祖様の時代に思いを馳せていた。この他、今秋には、西大寺観音院、吉備津神社、沼名前神社等を訪問する予定である。

聖蹟巡拝
（ご生家奥城）

消防・避難訓練

■平和学習

学院では、世界真の平和達成の祈りを新たにし、具体的な取り組みにつながることを願って、平和学習を実施している。

平和学習として、例年参加させていただいていた金光教広島平和集会が本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遥拝による開催となった。そのため、平和集会が開催される七月十六日に合わせて学院内で平和学習を実施することにした。

平和学習当日は、三本の映像資料を視聴し、その内容を元に「平和のために、私ができること」というテーマで共励会を行った。そして、最後に学院広前にて、金光教広島平和集会で奉唱される拝詞（平和祈願詞、原爆死没者霊前拝詞、平和の祈り）を奉唱し、平和への祈りを捧げた。

ヒロシマへ赴くことはできなかったが、学院生それぞれが平和への関心を持ち、信仰者としての慰霊と平和への祈りを確かにしていくこととなることを願う。

■文化活動

学院では、教師としての基礎的素養を身につけ、深い人格形成に資することを願いとして、文化活動を設定しており、学院生は、典楽、茶道、書道のいずれかを選択し、毎週水曜日の午後に実施している。

典楽／八名

典楽では、箏を三名、龍笛を三名、篳篥を二名が選択し、金光教典楽会から金光あかり師・岡田信義師を講師に迎えて、毎週稽古に励んでいる。初めて楽器に触れる者も多い中、信行生活の合間を縫って、お互いに教え合いながら、秋と春に執り行われる学院の霊大祭で神様に喜んでいただけるよう、真心を込めた練習を積み重ねている。

茶道／五名

茶道では、金光健子師を講師に迎えて、薮内の流派に触れている。

美味しいお菓子に癒されながら、お茶の奥深さを知り、改めて美しい和の文化に触れて、心豊かに楽しく稽古に励んでいる。回を重ねる中で、体が自然と作法を覚え、短期間で一通りのお点前ができるほどになった。

作法はもちろんのこと、相手を持て成す心、持て成される心を育てながら、学院合同茶会を目標に引き続き、精進していきたい。

書道／八名

書道では、中桐眞彦師のご指導の下、稽古に励んでいる。先生が書かれたお手本をもとにして、繰り返し稽古をしている。先生のご指導により、それぞれが上達している様子が窺うことができ、大変ありがたい。改めて、稽古の大切さを実感している。

本年も、生神金光大神大祭に合わせて学院書華道展を開催させていただき、ひとりひとりが思いを込めた字を書した半切を展示する。また学院合同茶会では色紙に好きな字を書いて披露する予定である。今後とも先生のご指導を仰ぎ、稽古に勤しんでいきたいと願っている。

日程（夏期在籍教会実習まで）

5月
- 14　本科入寮式
- 15　本科入学式
- 15～23　信行輔導期間
- 24～6/1　実践課題設定週間
- 25　大掃除（畳上げ）
- 27　授業開始
- 28　図書館見学
- 29　消防・避難訓練

6月
- 1　第一回求道の日
- 9　文化活動開始（毎週水曜日）
- 10～14　教団独立記念祭御用奉仕
- 15　特科入寮式
- 16　特科入学式
- 19　聖蹟巡拝（特科・木綿崎山周辺）
- 24　聖蹟巡拝（ご生家方面）
- 26 29 30　特科教話実習

7月
- 1　第二回求道の日
- 3　聖蹟巡拝（本科・木綿崎山周辺）
- 8　学院長寮内巡回
- 16　特科卒業証書授与式
- 16　平和学習
- 18　第一回部屋替え
- 26～28　第一回定期考査
- 30　第一信心レポート懇談

8月
- 5～9　少年少女全国大会御用奉仕
- 11～9/2　夏期在籍教会実習

特科生卒業

今年度の特科生九名は、六月十六日に入学し、七月十六日までの一カ月間に及ぶ学院修行を進めた。

学行では、教典ゼミ・祭式・祭詞等などを受講し、信行では本科生の班に加わって、参拝、洒掃、炊事等を行じ、奉仕のお役にも当たった。それぞれが、修行に取り組み、教師としての基礎的素養を習得し、御霊地のお徳を頂いて、ここから御用に立たせていただく心構えができたようである。

また、先に入学をした本科生と互いに磨き合うことができたことは、大変ありがたいことである。ここからの御用成就を祈念する。

特科卒業証書授与式

生きておる間は修行中

大阪府・大美野教会　阿部　眞一

私たち特科生は、六月十六日の朝、本部広前でのお届けの後、学院入学式に臨み、修行生としての決意をそれぞれが胸に抱きました。この日から、日々、教主金光様の御取次を頂きつつ、学院特科生として修行生活が始まりました。最初は、戸惑いの連続でしたが、先に入学した本科生の皆さんが一つ一つ親切に教えてくださり、七月十六日、卒業することができました。

定められたカリキュラムのもと、執り進められる一カ月間の修行は、決められた修行が中心です。その修行を通じて、お道の教師としての素養を身につけ、覚悟と責任を自覚することができました。それを現していくのは、ここからだと思います。教祖様は、日常生活で出合うあらゆる問題を通じて心を磨いていくことを説いておられます。ここからは、日々の御用の中で起きてきた問題を通して、神様に心を向け、自ら求めていく修行となります。それ故、決して独り善がりの修行になってはいけない、と肝に銘じています。

「生きておる間は修行中じゃ」というみ教えを胸に、御用をさせていただく所存です。

学院生活で学ばせていただいた事

福岡県・一枝教会　佐取　周子（なりこ）

令和三年の特科は、コロナ禍のため、入学前から二週間の不要不急の外出を控えることや、毎日検温をし、それを表に記録するなどのご指導をいただき、無事九名が揃って入学することができました。

入学後も、マスク着用での修行となりましたが、先生方も毎日一人一人に声をかけて下さり、全員無事に卒業することができました。

学院での修行生活は時間に追われ、慣れない下駄に悪戦苦闘しながらでしたが、他の特科生の方と励まし合い、先に入学されていた本科生の方々がいろいろと優しく教えていただき、とても楽しく、貴重な修行期間となりました。

特に、この一年半の間、教会での大祭や、各種の諸行事が縮小され、遙拝や、内々での祭典が続いたため、学院に入学して、先生方や講師の方、学院生の教話を聞かせていただき、勉強させていただけたことがありがたかったです。

祖父母、父母も過ごした学院の洒掃は感慨深く、同じ教師の列に加えていただける喜びを感じております。ここからは、先生方の言葉やご指導を思い、教会の御用に頑張りたいと思います。

特科教話実習

授業風景（祭式）

学院生の声！

神に心を向ける生活

大阪府・池田教会　四方　清志

本年度の学院生が、ここ金光教学院に入学し、気が付けば、約三カ月が経過しました。

私は、これまで寮生活を送ったことがなく、学院入学後の寮生活は、悩みの一つでした。出身も年齢も異なる方々が集まりましたが、すばらしい同期の方々に恵まれ、充実した寮生活を送ることができています。

さて、私たち学院生には、前期の学院生活を送るうえで、「神に心を向ける」という信行目標が設定されています。そして、この信行目標に向かう手段・方法は、実践課題として、学院生各々が考えます。学院生それぞれが、課業や参拝、御祈念などが細かくスケジュールされている中で、時間を作り、金光様のお出ましや寮周り、部屋の洒掃などを実践しています。

私は、日常のありふれた出来事や行動にも、神様の働きを感じ取れるよう、心の感度を高めることを目指し、自ら設定した課題に日々取り組んでいます。

学院生活はまだ始まったばかりですが、学院生一同、互いに祈り合い、助け合いながら、残りの修行生活を精進して参りたいと思います。

聖蹟巡拝（木綿崎山周辺）

恵まれたなかでの修行

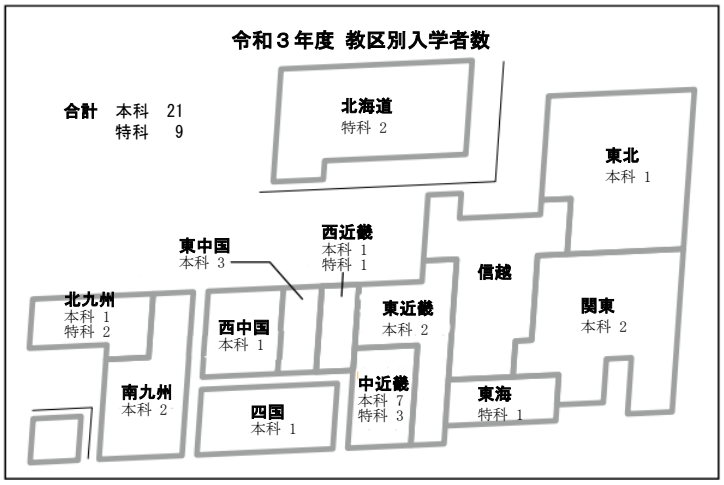
兵庫県・福崎教会　加納　真保

学院に入学させていただいておよそ三カ月が経ちます。入学当初、初めての寮生活に緊張し、分刻みのスケジュールに追われて毎日心も体も大変でしたが、優しい同期や先生方に恵まれ、段々と順応し、今では楽しく修行をさせていただいております。

「起きてくることはすべておかげの中のおかげ」と教えていただき、日々の色々な問題をありがたく受け取り、「させて頂く稽古」として取り組んでいます。その中で、これまでの私では出来なかったようなことが簡単に出来たり、起こってくる問題も短時間で解決できたりなど、自分の力ではない、神様のお働きを感じ、何事もプラスに捉えることが出来るようになってきました。

このことは、金光様をはじめたくさんの方がお祈り下さり、また在籍教会の歴代先生方や私の御先祖様が一緒に御修行して下さっているからだと思います。

守り導いてくださる神様の御働きを感じつつ、恵まれたなかでの修行をすることが出来ていることを本当にありがたく、またもったいないことだと思います。そのことを十分に御礼させていただき、これからも修行に取り組んで参りたいと思います。

大掃除（畳上げ）

学院長寮内巡回